

## 平成 24 年度研究成果情報

課題名：ノリ色落ち軽減化のためのカキ垂下養殖技術の開発

### [背景・ねらい]

佐賀県のノリ養殖場では、冬季に発生する珪藻赤潮によるノリの色落ち被害が毎年のように発生しており、深刻な問題となっている。そこで、ノリ養殖に用いる支柱にカキの飼育器を複数垂下し、珪藻を効率的に摂餌させることや、排泄で窒素分を漁場に供給することによるノリ色落ちの軽減効果について検討した。

### [成果]

- (1) 垂下養殖にあたり、図1に示す飼育器(新珪藻パックン)を作製し、ノリ養殖場2箇所(各 1 小間)に設置した。その結果、消化管内容物から、飼育器内のカキが環境水中の珪藻プランクトンを摂餌していること、ノリ養殖作業及び施設への影響がないことは確認できたものの、ノリ色落ちの軽減効果については確認できなかった。
- (2) カキの生残率は 95%以上あり、成長、身入り及び食味も良好であったことから、ノリとの複合養殖の可能性が示唆された(表 1)。

### [課題・問題点]

- ・ ノリ色落ち軽減効果が確認できなかった。

### [今後の対応]

- ・ 珪藻赤潮の原因プランクトンの一種であるアステリオネラの初発海域や滞留海域が概ね特定されてきたことから、アステリオネラが発芽増殖する前から滞留海域において、飼育器によるカキの試験垂下養殖を実施し、色落ちの軽減効果について再検討する。

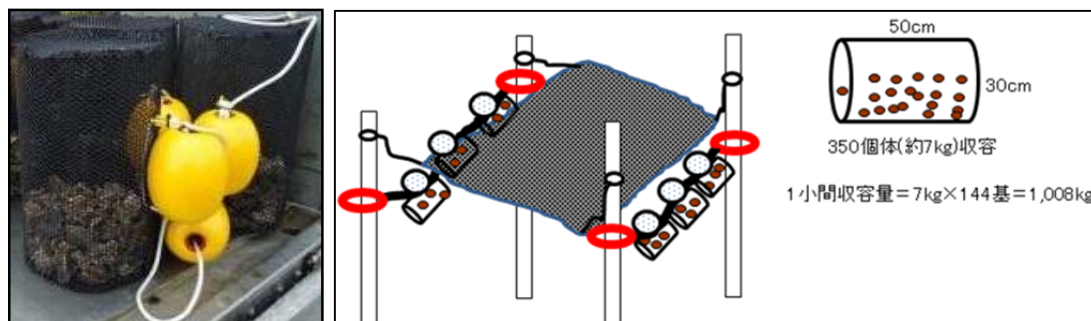


図 1 飼育器(新珪藻パックン)の写真(左)と飼育器の設置方法

表 1 試験結果

試験場所		七浦(有区1263)	浜(有区1249)
試験開始日		H24.12.22	H24.12.31
取上げ日		H25.2.26	
開始時	平均殻高(mm)	59.3	
	平均重量(g)	18.1	
	平均剥き身重量比率(%)	20.0	
取上げ時	殻高(mm)	68.9	69.1
	重量(g)	28.5	29.9
	平均剥き身重量比率(%)	31.9	30.6
生残率(%)		95.3	97.1
増重量(%)		157	165
日間成長量( $\mu$ m/日)		145	148

\* 剥き身重量比率は、剥き身重量(g)/殻付き重量(g)\*100で算出

\* 増重率は、取上げ時の平均重量(g)/開始時の平均重量(g)\*100で算出

\* 日間成長量は、{取上げ時の殻高(mm)-開始時の殻高(mm)}/飼育日数\*1000で算出

[その他]

研究期間:平成 24 年

研究担当者:普及担当 藤武 史行